



TITLE:

<図書紹介>Geravdo P. Sicat (ed.), The Philippines Economy in the 1960's, Institute of Economic Development and Research, University of the Philippines, Quezon City, 1964,xii+281p.

AUTHOR(S):

本岡, 武

---

CITATION:

本岡, 武. <図書紹介>Geravdo P. Sicat (ed.), The Philippines Economy in the 1960's, Institute of Economic Development and Research, University of the Philippines, Quezon City, 1964,xii+281p.. 東南アジア研究 1965, 3(2): 149-149

ISSUE DATE:

1965-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/55066>

RIGHT:

れる必要があらう。

本書は5部からなる。第1部はフィリピンのコンテクストとして、フィリピンの社会・政治・ナショナリズム・リーダーシップなどの特質をとらえる。第2部は大恐慌、日本の進出、アメリカの後退開始期をとりあげる。第3部は独立のための米比間の折衝をとりあつかう。第4部はコモンウェルス時代。そして第5部は大試練と題してこの日本の進略・占領からフィリピン共和国の発足に至る。最後にクロノロジーと、非常にすぐれた文献目録がつけ加えられている。

歴史学者でない私は、本書の学問的価値を論ずることはできない。しかし、Yale Historical Publications, Studies 22 として本書が刊行されていることは、その学問的価値を証明するものでなかろうか。また私自身にとって、Quezon, Osmeña, Roxas などのフィリピンを動かした人々、あるいはアメリカ側の MacArthur, Stimson, Hoover, Roosevelt などの立役者の活動をまざまざ記録した本書は、まことに面白い読物でもあった。(本岡 武)

Geravdo P. Sicat (ed.): *The Philippines Economy in the 1960's*. Institute of Economic Development and Research, University of the Philippines. Quezon City, 1964. xii + 281 p.

フィリピン経済の代表的文献としては、コーネル大学のゴーレー教授の著書 (F. H. Golay: *The Philippines, Public Policy and National Economic Development*. Cornell University Press, Ithaca, N. Y., 1960) があげられるが、本書はこれにつぐものとして評価されている。幸に、私は、去る6月たまたまフィリピン大学の経済発展研究所で本書を入手した。(米・英・独・仏などでの出版物は、外国書取扱い書店をとおして、わが国にどしどし入れられているが、東南アジア諸国での刊行物は、よほど注意しないと、ミスしがちになるからである。)

フィリピン大学経済発展研究所が、1963年10月から12月にかけて、「1960年代のフィリピン経済」という主題のもとで連続公開講演会をマニラで開いた。そのペーパーを教授が編集したのが本書である。1960年代の経済という主題であるものの、多くの論文は、この時間的限定をこえてフィリピン経済の構造の分析にお

よんでいる。

本文に収録されている論文をあげよう。

- 1) Sicat 教授によるフィリピン経済の総論
- 2) フィリピン大学 Romulo 総長の開講演説からの抜粋としての《1960年代のわれわれの任務》
- 3) フィリピン大学 A. Kintanar, Jr. 教授の《1960年代の公共部門開発のための課税融資》
- 4) 経済企画庁 A. V. Fabella 長官の《開発計画の若干の戦略的側面》
- 5) フィリピン大学 R. W. Hooley 教授の《1960年代の私的貯蓄：社会会計の一試論》
- 6) 国際稲作研究所 V. W. Ruttan 博士の《農地改革と国民経済発展》
- 7) 経済企画庁 D. M. Ferry 立法・政策研究部長の《農民改革の憲法的・社会的側面》
- 8) 国家経済会議 S. K. Roxas 議長の《フィリピンの地域的経済発展——1960年代の工業地域計画》
- 9) Sicat 教授の《フィリピン工業の構造——1960年代の見とおし》
- 10) フィリピン中央銀行 B. Legarda 調査部長の《フィリピン外国貿易の諸問題》
- 11) フィリピン大学 A. A. Castro 経済発展研究所長の《企画長期金融の諸問題》

各ペーパーの末尾に Open Forum として、聴講者と報告者との間の質疑応答が掲載されている。フィリピンでは、私の限られた経験によっても講演のあとのディスカッションが非常にすきなようだ。このディスカッションについては、長所短所いろいろとあるが、ディスカッションによって論点がより明らかになるという長所が認められる。本書はこの長所をよく生かしていると思われる。

個々の論文を批評する余裕はないが、Ruttan 博士の農民改革論はきわめてすぐれたものである。とくに、メンションしておく。(本岡 武)

*Wacanānukom Phāsā Lāw khōng Kasuang Sūksāthikān*. 2nd. ed., Vientiane, 1962 vi + 1125p. *English-Lao Dictionary (Wacanānukom Angkit-Lāw)*. compiled by Boon Thom Boonyavong, under the supervision of J. DeNoia, with the technical assistance of G. E. Roffe. Vientiane, Lao-